



高齢者・高齢障害者のシーティング

高齢者・高齢障害者に配慮されている車椅子

東京都立医療技術短期大学 木之瀬 隆

国立身体障害者リハビリテーション
センター研究所

廣瀬 秀行

はじめに

スウェーデンのエルゴセラピストと車椅子の話をした時にスタンダード車椅子のことで話が大きく食い違ったことがある。国内のスタンダード車椅子とは普通型折り畳み式車椅子のことであり、欧米の場合はシートユニットの調整、駆動ユニットの調整、フットレストのスイングアウト等の可能な車椅子をスタンダード車椅子としている。またモジュラー化された座位保持装置が多数あり、車椅子への取付も簡単で完成度の高いものである。しかし、国内の現状は全国特別養護老人ホームの我々の調査では一種類の普通型車椅子がほとんどで高齢者の座位保持については考えられない。今回は普通型車椅子の問題点の改善策として高齢者のシーティングシステムや座位保持車椅子について紹介する。

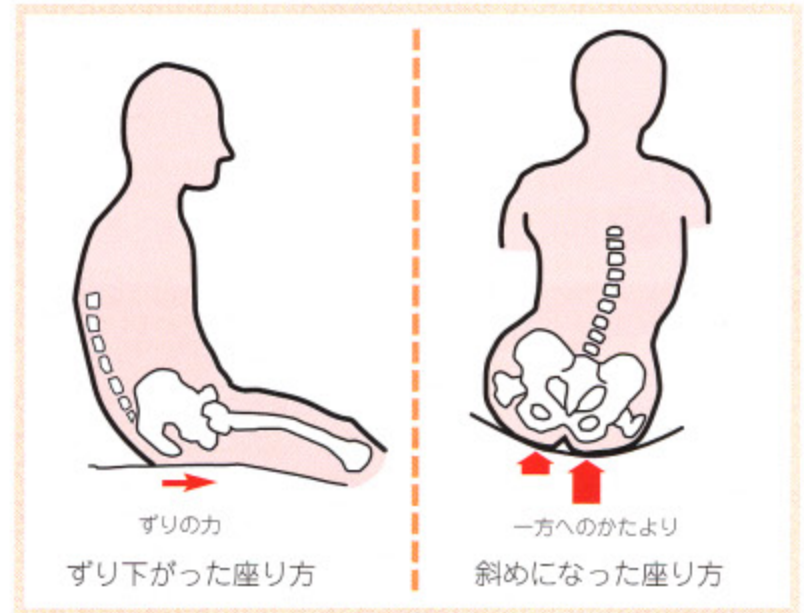


図1 車椅子のスリングシートの問題点

1 車いすのスリング・シートの問題点は認識されているか？

前回もふれたがスリングシートの車椅子は移動用であり、椅子機能は低いと考える。変形や拘縮は臥床した姿勢や座った姿勢からできるため、良い姿勢保持が重要である。高齢者や障害者は全身の機能低下や筋力低下のために、スリングシートの車椅子では安定座位をとることが難しい。多くはずり下がった座り方や斜めになった座り方が多い(図1)。これらの問題点は車椅子にしっかりと固定された座面と背でその上に良質なクッションを乗せることで多くは解決できる。

2 高齢者・高齢障害者に配慮された座位保持装置と座位保持車椅子

我々がシーティングシステムのモデル施設としている特別養護老人ホームで使用されている車椅子の種類である(図2)。これらを障害の程度や自立・介助のレベルに合わせて処方している。



図2 特別養護老人ホームの車椅子

①コンピクッション

米国JAYメディカル社のクッションで座面の形状が殿部の形になっており殿部全体で体重を支え、またランバーサポートで腰部が保持されずり下がった姿勢になりにくい(図3)。対象者は障害のない高齢者から軽度の障害者まで適応となる。類似のクッションが多く輸入されるようになったが、使用上のポイントは座面の高さを本人に合わせることである。



図3 コンピクッション

〈その2〉

②AEL 座位保持装置

米国AEL社の座位保持装置で普通型車椅子のスリングシートを取り外し、座面と背をのせ、国産の車椅子と適合するように改善してある(図4)。座面の高さ調節がある適度可能であり、サイドサポートやヘッドレスト等のアクセサリも豊富である。対象者は軽度から重度の障害者向けである。また、ずり下がった姿勢になりやすい高齢者は抑制帯を使うことが多いが国内では拘束することの問題意識はかなり低い。この座位保持装置を使うことでずり下がりを防ぎ抑制帯の必要なくなったケースを多く経験した。

③JAYシステムの座位保持装置

JAYメディカル社の座位保持装置であり、国内の車椅子への取付は車椅子の改造が基本的には必要である。種類が豊富で発達障害児から高齢障害者までの範囲に処方される。重度の高齢障害者向けにはJ ケアバック(背)やヘッドレストが合わせて使用される(図5)。

④コンフォート座位保持車椅子

スカンジナビアン・モビリティ社の座位保持車椅子であり、リクライニング機能とティルト機能(座面と背の角度が変わらず全体が傾く)が合わせて使用できる(図6)。対象者は車椅子操作可能な高齢者から重度の寝たきり状態の高齢障害者である。

おわりに

以上、紹介した座位保持装置や座位保持車椅子は高齢者・高齢障害者の自立を図るのにも適している。しかしながら、これらの車椅子を即、対象者に使用しても失敗することが多い。注意点の一つは車椅子適合の基本である寸法を合わせることである。二つ目はシーティング・システムの基本的な学習をしながら対象者の選択を行う。三つ目は生活の中で使用する車椅子として環境との調整を含め少なくとも数日は評価期間を持つ必要がある。高齢者のシーティング・システムはこれからであり、中間ユーザーであるセラピスト、エンジニア、業者等を含めた教育が必要となる。



図4 AEL座位保持装置



図5 JAYシステムの座位保持装置



図6 コンフォート座位保持車椅子



今回紹介した座位保持装置・座位保持車椅子は東京都中野区の特別養護老人ホーム(ペタニアホーム)で使用されているものです。